

平成14年度全国高校総合体育大会第55回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成14年 8月2日 (金)

会場 日立商業高等学校体育館

【男子の部】 第1日目 Fコート 第1試合

チームA 県立四日市工業 三重	75	{ <table border="0"> <tr><td>17</td><td>1Q</td><td>32</td></tr> <tr><td>24</td><td>2Q</td><td>24</td></tr> <tr><td>14</td><td>3Q</td><td>27</td></tr> <tr><td>20</td><td>4Q</td><td>31</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table> }	17	1Q	32	24	2Q	24	14	3Q	27	20	4Q	31		OT		114	チームB 県立中部工業 沖縄
17	1Q	32																	
24	2Q	24																	
14	3Q	27																	
20	4Q	31																	
	OT																		

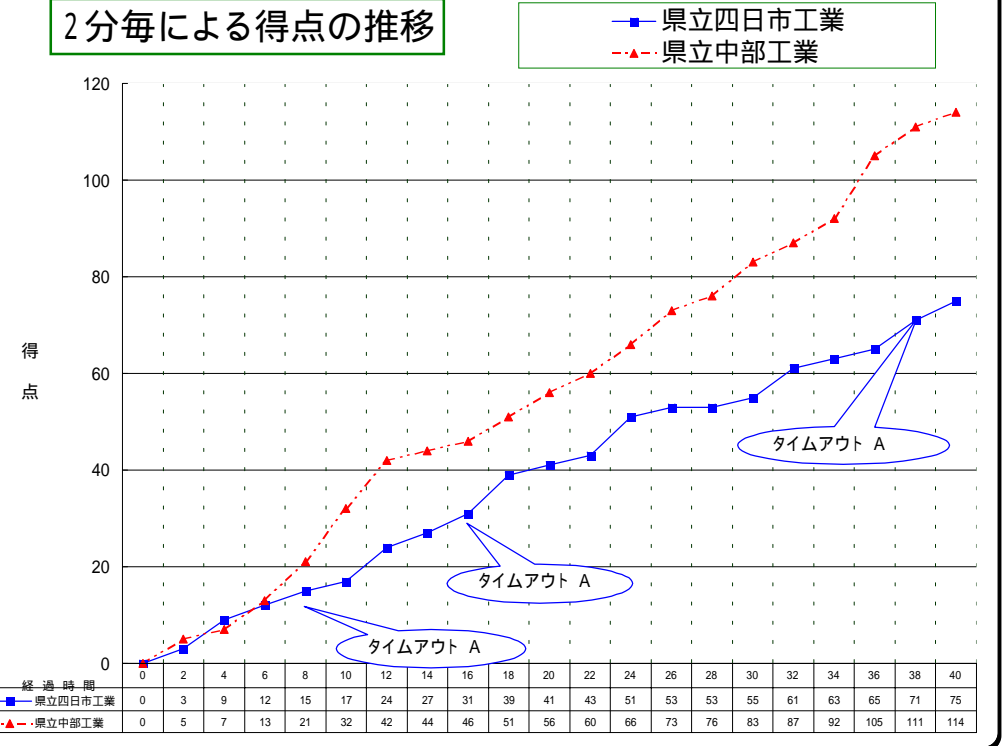
県立四日市工業

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	柳生 隼人	10	0	2	5	7	0	0	2	0	1	4	1	2	0	26
5	堀 勝成	1	0	1	0	0	1	2	3	0	1	4	0	2	0	14
6	横本 卓弥	12	0	4	5	8	2	2	4	1	3	3	0	0	2	40
7	落合 恭兵	24	0	0	11	19	2	2	4	7	5	6	5	1	2	40
8	杉本 淳也	9	1	3	2	11	2	4	5	0	4	3	4	2	0	15
9	伊藤 寿翁	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10	永谷 紳															DNP
11	船津 準平	2	0	1	1	5	0	0	5	2	5	2	0	3	0	24
12	伊藤 謙	11	1	2	4	5	0	0	0	1	1	3	0	6	0	26
13	中西 広将															DNP
14	丹羽 雄也	4	0	1	2	3	0	0	1	3	0	4	0	2	0	14
15	佐藤 澄仁															DNP
コーチ	水谷 幸司								0							
		75	2	14	31	59	7	10	24	14	20	29	10	18	4	200
		確率	14.3%	52.5%	70.0%				計	34						

県立中部工業

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	友利 健哉	7	1	5	1	5	2	3	0	0	5	3	4	6	0	27
5	仲宗根鳴俊	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
6	大濱 卓	18	0	0	9	11	0	2	3	2	2	4	2	1	0	26
7	伊計 郁也	5	0	0	2	7	1	6	0	0	0	1	2	8	0	13
8	徳門 豊	4	0	0	1	2	2	2	1	0	1	1	0	1	0	9
9	長嶺 義晃	9	3	7	0	1	0	0	3	0	2	1	1	0	0	17
10	横田 祐樹	3	0	0	1	2	1	2	0	3	2	1	0	0	0	9
11	花城 大輔	2	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
12	玉城 孝太	18	0	0	8	14	2	2	4	3	1	0	2	1	0	23
13	仲宗根峻也	20	3	4	4	6	3	5	3	3	0	0	2	6	0	22
14	若宮 一友	24	5	12	3	6	3	4	0	1	1	3	2	6	0	33
15	玉城全次郎	2	0	0	1	2	0	0	1	0	3	1	0	2	0	12
コーチ	安里 幸男								0							
		114	12	28	32	58	14	26	15	12	18	16	15	31	0	200
		確率	42.9%	55.2%	53.8%				計	30						

2分毎による得点の推移



戦評

両チームとも激しいマンツーマンディフェンスでゲームのペースをうばいあう。第1Pの終盤、中部工はゾーンプレスをしかけ#14若宮を中心に次々と連攻と3Pをくりだし一気にリズムをつかむ。四日市工もゾーンに変えて流れを変えようとするが実らず32-17と中部工リードで第1Pを終える。第2Pに入って中部工はマンツーマン、ゾーンとめまぐるしくディフェンスを変え、また四日市工もゾーンプレスを出すなどして互角の攻防を繰り返し56-41と中部工が第1Pのリードを保ったまま前半を終える。

第3Pになると中部工の速攻を中心としたオフェンスがスピードを増し#14若宮、#13仲宗根らが次々と得点していく、四日市工も#7落合がゴール下でがんばりを見せるが、中部工のシュートは止まらず83-55と大きくリードしていく。第4Pになってもゲームの流れは変わらず中部工はめまぐるしくメンバーチェンジをしながら戦い114-75としてゲームを終了する。

主審 西 憲幸

副審 ヴォス ランドル

記入者 海老原 毅